



11 西村五雲 秋茄子

一幅

昭和七年（一九三二） 絹本着色  
本紙一六三・五×二〇一・〇

昭和七年の第十三回帝展に出品し宮内省によって買上げられた西村五雲の代表作。「まだ充分親狐になり切れない程の中狐が、冬近い時雨模様の黄昏時を、人里遠い山村の捨てられた様な島に出て遊んでる」と云った調子を出したいと思った」と作者が語る通り、二匹の狐が無邪気にじゃれ合い、その足下でもう一匹がのんびりと寝そべる様子が、点景に枯れた茄子を添えて描かれる。愛嬌のある狐が醸し出す明るさと時期を過ぎて葉も枯れ実のはぜた茄子が漂わせる荒涼とした雰囲気相まって、この絵にどこか詩的な趣を与えている。

西村は師竹内栖鳳ゆずりの温雅な動物画に定評があったが、そこには徹底した観察眼と一切の妥協を許さないこだわりが常に根底にあった。本図の制作にあたって、納得のいく狐を求めて山奥にまで野生の狐を探しに行ったり名古屋の動物園まで出向いたり、ついには自宅の庭に一匹の狐を飼って終始その動きを観察しては写生を繰り返したという。ごくわずかな輪郭線で縁取られたしなやかで動きのある狐の姿や、ふわふわとした手触りまで伝わるような見事な毛の質感描写には、こうした対象の観察と写生の成果が現れている。また出品の締切時間に間に合うかどうかという直前まで構図を悩み続け、最後に画面右端の中央にカヤツリグサを一本描き加えてようやく納得したとの話も残っている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections